



日本共産党文京区議会議員  
**まんだち幹夫** 通信 **週刊**  
 2011年7月15日号 No.200

**'みなさんをいつもまんやかに、**

区議団控室：5803-1317 (直通)  
 萬立幹夫事務所：文京区小石川2-23-7  
 ・fax 3868-8355  
 メール：mandachi@jcp-bunkyojugidan.gr.jp

《このニュースは区議団ホームページ <http://www.jcp-bunkyojugidan.gr.jp/>でもご覧いただけます》

13日、区長への申し入れ  
 議会での審議を終えて、災害対策やさらなる放射線量測定など申し入れました。



梅雨が明け、厳しい暑さがつついていきます。いかがお過ごしでしょうか。毎週発行しています「まんだち幹夫通信」が今回で200号となりました。議会に送っていただいていた5年目(候補のときに49号発行しましたが)、選挙期間中

**文京区絶対高さ制限の素案が審議されました**

秩序ある市街地形成、良好な住環境、近隣紛争の防止 などまちづくりのあり方の一環として、「絶対高さ制限を定める高度地区の指定」(第一次素案)が、11日の都市計画審議会で報告、議論がされました。高さ制限はもちろん必要です。しかしこの高さ制限は高すぎないのか、(その範囲内なら)高層住宅建設の呼び水にならないか、なぜシビック周辺はその対象外か...など疑問点も指摘しました。

来月以降おこなわれる住民説明会で、みなさんの意見をどんどん寄せましよう。

まんだち通信

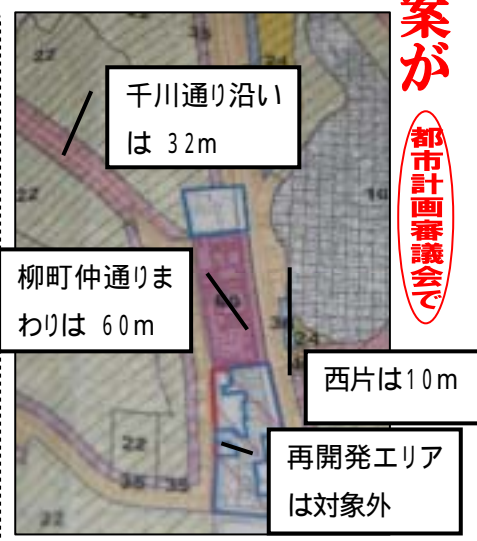
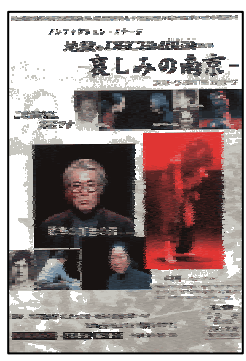
おかげさまで  
**200号**  
 今後ともよろしくお願いいたします

をのぞいてとにかく、毎週発行しました。みなさんに私自身の目で見た区政を伝えたい、また、私にとっても活動の記録の整理ができると思って綴ってきました。引き続き購読と、みなさんのご意見をお寄せください。

**舞台「哀しみの南京」  
 グッと重く、考えさせられます**

誘われるままにうかがった西片教会での舞台「哀しみの南京」。南京虐殺扱ったものであることは承知していたものの、たった2人でこれほど迫力も説得力もある舞台は初めてでした。ご夫婦の俳優がそれぞれの両親が戦争中に何をし、戦争が終わってもなお自身だけでなく、その息子や娘にまで及ぶ深い傷と罪を激しく問い詰め、問いかける。

日本の加害責任、真実を冷厳にみつめながら、同時に日本国民全体が為政者の被害者だったことも事実。観終わったとき言葉がでませんでした。いろいろ考えさせられました。



- 7日 後楽園駅頭で朝の宣伝。「原発ゼロの提言」文字ばかりのピラでした。多くの方が手に取ってくれます。やはり多くの方が模索をしています。
- 9日 午前中「赤旗」日曜版の配達。すぐに汗びっしょり。今日は朝、昼、夜とシャワーを浴びました。3時から「原発からの撤退を」の新ポスターを貼りました。大きな世論をつくるために宣伝も強めます。
- 11日 午後2時から上記の「都市計画審議会」に出席。委員として2年間の傍聴者でいっぱい。緊張します。区議会第一委員会室は25
- 13日 午前、区への申し入れ。対応した新副区長に私から説明。説明する側も受ける側も初体験でした。

**まんだち日誌**